

## 第4回スタートアップ政策推進分科会 金融庁説明資料

---

2026年5月20日



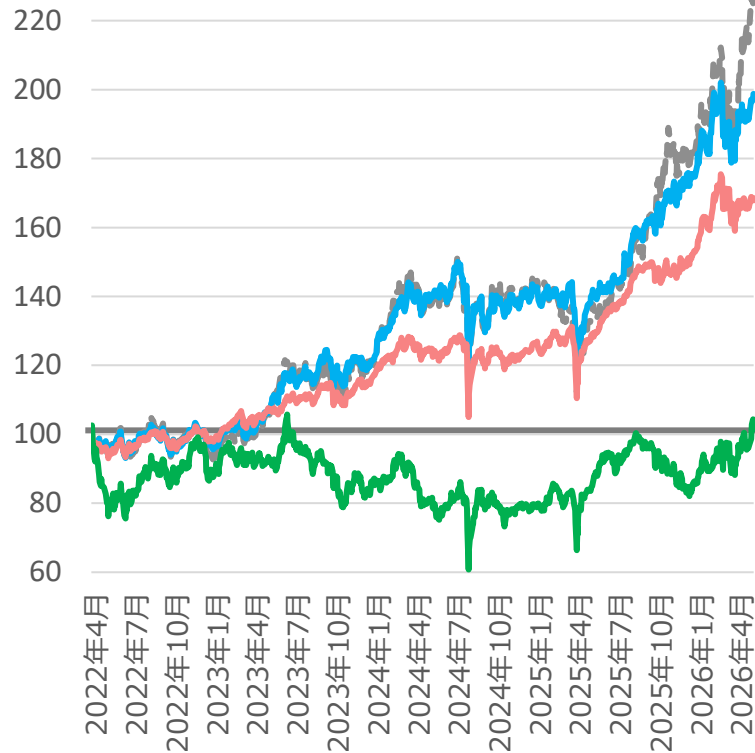
Financial Services Agency, the Japanese Government

# 東証グロース市場の現状

- 最近数年間、東証市場全体の株価上昇と比較して、グロース市場のみ低迷
- 上場後に高い成長を実現する企業は少数に留まる

## 株価指数の推移

※ 新市場区分への移行日(2022年4月4日)の値を100として換算



2026年5月時点

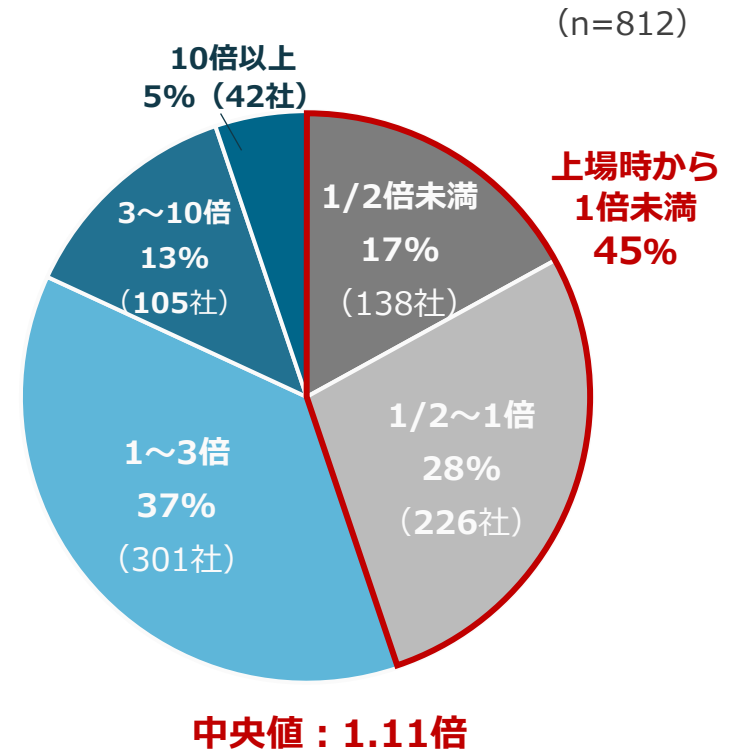
日経平均  
226.2

東証プライム  
市場指数  
198.7  
※TOPIX 198.2

東証スタンダード  
市場指数  
167.8

東証グロース  
市場指数  
101.6

## グロース上場企業の時価総額成長率



注：2004年7月～2024年末までにマザーズ/グロース市場に上場した会社（上場廃止会社を除く）が対象  
注：時価総額成長率は、現在の時価総額（2024年10月～12月の終値平均ベース）を新規上場時の時価総額（公開価格ベース、ただし公開価格がない場合は上場月末終値ベース）で割ることで計算

# 東証グロース市場活性化に向けた今後の取組み

- 東証では、上場後の高い成長を促すことに主眼を置き、グロース市場をまさに「グロース」らしくしていくため、以下のような取組みを実施中。上場前においても、高い成長につながるIPOを生み出すため業界一体で推進

## 上場後

### I. 上場維持基準の見直し

- ◆ 「上場5年経過後、時価総額100億円以上」に見直し（2030年から）（現在は、上場10年経過後、時価総額40億円以上）【**2025年12月施行**】
- ✓ 上場後の高い成長や企業間のM&Aを促す
- ✓ 新規上場基準は変えず、引き続き、100億円未満の規模で上場し、高い成長を目指すことが可能
- ※ 企業の成長機会確保のため、経過措置を設定するとともに、スタンダードへの市場区分変更基準を見直し

### II. 「高い成長を目指した経営」の働きかけ

- ◆ グロース全上場企業を対象に、投資家の期待を踏まえた成長状況の分析・評価、成長戦略・開示のアップデートを要請【**2025年9月～**】
- ✓ 時価総額100億円以上の企業も含め、高い成長の実現に向けた積極的な取組みを促す
- ⇒ 今後、対応状況について継続的にフォローアップ

### III. 積極的に取り組む企業のサポート、メリットの創出

- ◆ 取組みの検討材料の提供や、機関投資家との接点づくりのサポートなどを推進
- ① 投資家が評価しているグロース上場企業の取組み事例（好事例）を提供【**2025年12月**】
- ② 積極的に取組みを進める企業の投資家への見える化（一覧化）をスタート【**2026年2月**】
- ③ グロース上場企業にフォーカスしたセミナー、機関投資家との対話イベント等を開催【**順次**】
- ④ スタートアップの成長性に着目した「JPXスタートアップ急成長100指数」を開発【**2026年3月**】
- ⇒ 今後の効果的なサポート施策の検討に向けて、4月よりグロース上場企業・上場検討スタートアップへのアンケート・ヒアリングを実施中。引き続き市場関係者とも連携・協働し、各種施策を推進

## 上場前

### 上場後の高い成長を見据えたIPOの推進

- ◆ 上場後の高い成長につながるIPOを生み出すための取組みを業界一体（取引所、証券会社など）となって推進
- ✓ IPOを目指す企業（経営者）に知っていただきたい内容等について、引受証券会社の責任者と認識を共有し、その内容を取りまとめて発信。ベンチャーキャピタルや監査法人などの市場関係者とも連携

# 我が国におけるプロマーケットの状況

---

## (TOKYO Pro Market)

- 東京証券取引所(東証)は、2009年6月、TOKYO PRO Marketの母体となるTOKYO AIMを開設。2012年7月よりTOKYO Pro Market(TPM)として運営
- 上場企業数は181社、J-Adviserは22社(いずれも2026年5月13日時点)
- 東証は、2026年4月、TPM上場企業に対し、「TOKYO PRO Marketへの上場目的の開示のお願い」を実施。この状況を踏まえつつ、今後、TPM上場企業に対する支援を強化していく方針

## (Fukuoka PRO Market)

- 福岡証券取引所は、2024年12月、Fukuoka Pro Marketを開設
- 上場企業数は17銘柄、F-Adviserは10社(いずれも2026年4月末時点)

## (Sapporo PRO Frontier Market)

- 札幌証券取引所(札証)は、2026年3月、株式のプロマーケット(Sapporo PRO Frontier Market)を本年6月に開設予定であることを発表

## 【参考】東証におけるプロマーケット活性化に係る今後の取組みの方向性

- 昨今、将来を見据えてIPO時期・規模の見直しやM&Aなどの選択肢を検討する非上場企業が増加しており、その結果、非上場と一般市場(グロース市場など)の間に位置するTOKYO PRO Market(TPM)の活用ニーズが高まっている。

### ◆ 東証によるヒアリング等を通じて明らかとなったTPMの活用ニーズ(例)

- ✓ 知名度・信用力向上の効果を活かして、企業規模・業績を拡大させていきたい
- ✓ 社内体制整備に向けた段階的なステップとして活用したい
- ✓ プロ投資家から成長資金を獲得する場として活用したい
- ✓ 既存株主(役職員含む)に売却機会を提供し、新たな株主を迎え入れたい
- ✓ M&A・資本提携の相手となる他の事業会社を探したい など

- こうした状況を踏まえ、東証は、TPMを多様なニーズを広く受け入れる市場とし、TPM上場企業が各々のニーズを実現しやすくなるよう、各社に上場目的(なぜTPMに上場するのか、どのようにTPMを活用したいのか)の開示を求めたうえで、各社の上場目的の投資家・関係者への周知を進めていく方針(本年4月、TPM上場企業に対し上場目的の開示を依頼。7月より開示企業の一覧化を開始予定)。

## 【参考】東証によるTOKYO Pro Market上場企業への支援策

□ 東証では、市場関係者と連携しながら、一般市場（グロース市場等）上場後に大きく成長していくための準備を進めるTPM上場企業の支援を実施していく方針。

※ 具体的な施策は、TPM上場企業の意見・上場目的等を踏まえつつ、継続的に検討を行う。

### 具体的な施策（例）

- **一般市場上場とその後の成長に向けた準備のポイント・留意点を発信**【26年春以降】
  - 市場関係者・先輩経営者等と連携したセミナー開催、事例の取りまとめ など
- **TPMにおける資金調達・投資獲得を支援**【26年秋以降】
  - 上場企業とクロスオーバー投資家等の対話イベント開催、特定投資家への情報発信（TPMへの発注を取扱う証券会社との連携等）、資金調達時等の上場料金の見直し など
- **J-Adviserによる伴走を促進**【26年夏以降】
  - J-Adviserへの働きかけ、各社の強み・伴走事例（資金調達・株式売買、M&A、IR、体制整備等の支援事例）の企業への発信 など
- **一般市場上場を円滑化**【26年秋めど】
  - 一般市場への上場審査の効率化（TPM上場企業としての実績を勘案）、開示様式の見直し（発行者情報と有報の様式を共通化のうえ一部項目の記載を任意化等） など